公　益　財　団　法　人

日本中国国際教育交流協会

【2020年度の歩み　会報第27号】

2021年3月発行

■表紙写真
【左】中国山東省泰安市東平県夏謝小学校音楽授業
（第17次訪中団・第３回日中音楽教育交流会写真）
【右】山梨県笛吹市立春日居小学校音楽授業
（第５回宋慶齢基金会教育交流代表団・第４回日中音楽教育交流会写真）

目　次

■巻頭言　公益財団法人日本中国国際教育交流協会　代表理事　中村武志 …… 2

■教育交流事業 …… 3
□教育交流・派遣事業 …… 3
□教育交流・受入事業 …… 3
□教育交流・支援事業 …… 4
□教育交流・研究等助成事業 …… 4

■第16回日本語作文コンクール …… 5
（1）教育賞受賞作品
テーマ：新型肺炎と闘った中国人たち―苦難をいかに乗り越えたか
「許さんと父の遺言」　李矜矜（安徽師範大学） …… 5
「団地の北門」　陳　朝（清華大学） …… 6

■機関関係 …… 8
（1）2019（平成31・令和１）年度事業報告 …… 8
（2）経過報告 …… 9
（3）2020（令和２）年度事業計画案 …… 11
（4）2020（令和２）年度収支予算書 …… 12
（5）2020（令和２）年度役員・評議員・公益事業審査員名簿 …… 14

■協会の歩み …… 15

■編集後記 …… 表紙３

巻頭言

公益財団法人日本中国国際教育交流協会
代表理事　中村 武志

公益財団法人日本中国国際教育交流協会の事業に対しまして、日頃より多くの方々の励ましやご支援を賜り心から御礼申し上げます。昨年度より、長年当協会をけん引されてこられた黒田代表理事にかわり、その任についた中村と申します。よろしくお願い申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大はいまだ収束のきざしすら見えてきません。国際教育交流を使命とするわが協会も、国境を越えた相互訪問はもとより、セミナー等の集会・学習会、そして協会の意思決定を行う諸会議ですら「対面」での開催が不可能な状況が続いています。まさに苦悩の日々です。

しかし、いつまでも現状を嘆いているわけにはいきません。日本・中国に限らず、この間、学校教育関係者は「感染拡大」に最大限の注意を払いながら、子どもたちの学びをどう保証していくか、時に試行錯誤を繰り返しながら、様々な方策を立案・議論・展開してきたはずです。それぞれの方策には国家・地域の状況や歴史的経過によってさまざまな「ちがい」はあるでしょうが、子どもたちの「今と未来」をどう保障するか、という教育の大命題への「それぞれの解」であることに変わりはないでしょう。だとすれば、私たちが学びあわなければならない、学びあう価値のある事柄が次々と産み出されているはずです。交流すべき「素材」は「感染拡大」以前よりも数多くあると考えます。まずはしっかりと議論を重ねながら、「ウイズ　コロナ」「ポスト　コロナ」に対応する「具体的交流方法」を創出する必要があります。

幸い、当会と中国宋慶齢基金会との「新たな共同プロジェクト」の具体化も進みだしました。この間の信頼関係を糧にしながら、あらたな「世界環境」に「新たな叡智」を注ぐべく歩みを進めたいと考えます。殺伐とした弱肉強食のグローバリズムから、寛容と連帯、協調の世界へ、子どもたちの笑顔あふれる未来に続く歩みを。

最後になりましたが、今後とも、教育関係の方々を中心に、より多くの皆様に一層のご支援を賜りますことを深甚よりお願い申し上げます。

教育交流事業

2020年度までの５か年計画の中で、教育交流派遣事業・支援事業・受入事業の展開へと結ぶことのできる山東省泰安市東平県における「教育交流プロジェクト」の推進を中心に、草の根教育交流をより深く、多様に発展させることができました。2019年度も、「視察研修訪中団」の派遣、「第５次宋慶齢基金会教育交流代表団」の受け入れと、「第４回音楽教育交流会」で、大きな成果をあげました。また、教育交流として第８回となる中国人留学生と日本の教職員家庭との友好を深める「教育交流ホームステイ」事業は、学生の語学研修のみならず、ホストファミリーを中心に日中友好、相互理解の輪をも広げてきました。残念ながら、「第５回教育交流シンポジウム」の開催は、新型コロナウィルスの流行により中止せざるを得ませんでしたが、これからも、「日本語作文コンクール」との関わりを持たせながら取り組んでいこうと考えていました。さらには、懸案になっていた「田中一郎記念奨学基金」による取り組みとして、主に東南アジアからの留学生を対象とした奨学金取り組みの「留学生による日本語作文コンクール」を実施したいと考えていました。しかしながら、そうした計画は、「コロナ禍」においてことごとく実行不可能となってしまいました。

□ 教育交流・派遣事業

今年度は、「新たな教育交流プロジェクト」実施地の決定を、中国側の重要なパートナーである中国宋慶齢基金会との協議の中で行い、新５か年計画をスタートさせる予定でした。今までは、年度初め早々に役員による事務局レベルの派遣を行い、新５か年計画の予備調査・事前協議を行っていました。また、その後に視察研修訪中団を組織する中で候補地を訪れ、当財団と中国宋慶齢基金会そして現地の教育局との協議の中で、「新教育交流プロジェクト」の対象と教育交流派遣・受入・支援の内容について決定していました。しかしながら、「コロナ禍」の中で、そういった従来の方法はかないませんでした。そこで、中国宋慶齢基金会の劉所長と連絡を取り合い、いくつかの候補地をあげてもらいながら検討を進めてきました。その結果、「河北省保定市阜平県を第一候補地として、今後の段取りを組んでいこう」と言うことになりました。阜平県への絞り込みについては、基金会から送られてきた下記の様な資料（他の候補地についても同じように紹介された）を参考にしながら、協会としてもインターネット等で調べ、数回の協議を重ねる中で行いました。

> 阜平県
> 阜平県は中国河北省保定市に属している。山奥の貧しい地区で、抗日戦争と解放戦争の革命地区でもある。非常に貧しい地区として、習近平国家主席が何度も訪れたことがある。北の北京から275キロ、南の河北省首都の石家荘市から110キロ、西の仏教名所五台山から78キロである。昔から「90パーセントの山と５パーセントの水と５パーセントの畑からなっている」と言われている。人口は30万人未満である。現在、県内の各種の学校は107校で、専門教師は2895人、学生は44454人である。義務教育はバランスを取って発展させている。高校教育もだいたい普及されている。2020年は中国の貧困脱却決戦の年で、阜平県はやっと２月29日までに脱却できた。　（基金会からの資料の一部）

□ 教育交流・受入事業

今後の取り組みの中で、「新たな教育交流プロジェクト」の実施地が決定し、交流の内容が具体化する中で、「第６次宋慶齢基金会教育交流代表団」の受け入れについて検討していこうということになりました。中国においては、上記の資料の内容でも触れているように、地域格差の問題が教育にも大きく影響を及ぼしているようです。そうした中で、「日本に学びたい」という要望が大きいと聞きます。先の５か年計画でも、当初１回で計画していた教育交流団の受け入れを、中国側からの強い要望で計画を変えて２回実施しました。今後の取り組みの中で、教育交流団の受け入れについて具体化していきたいと考えています。

□ 教育交流・支援事業

今後の取り組みの中で、「新たな教育交流プロジェクト」の実施地について決定し、交流の内容を具体化し、現地の教育局・学校側との話し合いを通しながら、より要望のある意味ある教育交流支援を行っていこうと考えています。支援の規模としては、「新たな教育交流プロジェクト」においても、前回の５か年計画と同じように、100万円／年で行っていこうと計画しています。

□ 教育交流・研究等助成事業

◇「第９回教育交流ホームステイ」については、この間積極的に協力いただいているフジ国際語学院等とも協議を重ねましたが、新型コロナウィルス感染拡大にかかわる様々な影響（留学生が日本に来られない）で、「今年度は実施困難」という結論になりました。草の根教育交流として大きな意味を持っている取り組みなので、中止は非常に残念でしたが、しかたがありませんでした。

◇今年度初めての試みとして、「田中一郎記念奨学基金」を利用した「留学生による日本語作文コンクール（仮称）」を実施しようという計画でしたが、これも「コロナ禍」で進みませんでした。近年、中国に次いで日本への留学生が多いベトナムについて、ベトナム大使館へコンタクトを取る段階まで話が進んだのですが、それ以上具体化できませんでした。今後、新型コロナウィルス感染の動向を見ながら積極的に進めていこうと考えています。

◇「第５回日中教育文化交流シンポジウム」については、「日本語作文コンクール」ともうまくを関わりを持たせながら開催してきましたが、昨年度と同様に、作文コンクールの最優秀賞者が中国から来日できないなど、留学生も参加しての学習会が今まで通りに開催できるような条件が整わずに中止することとなってしまいました。「大変意味のあるシンポジウムで今後の取り組みに大いに期待する」といったご意見ご感想を多数いただいておりましたし、今後は中国大使館からも参加していただこうと考えていた矢先だったので、大変残念でしたが、来年度こそは開催をと考えています。

◇「第16回日本語作文コンクール」については、以下の報告をご覧ください。

第16回日本語作文コンクール（教育交流　研究等助成事業）

2020年度第16回日本語作文コンクール（日本僑報社主催、外務省・在中国日本大使館後援、朝日新聞社など協賛）には、中国各地の180の大学・専門学校・高校等から計3438作品の応募がありました。

日中関係は、一昨年には平和友好条約締結40周年という記念すべき年を経て、その強化をさらに加速させなくてはならないと思っています。そうした中で、前向きな両国関係を創り出そうという取り組みの一つとして、中国で日本語を学ぶ中国の若者たちの日本語学習熱や日本への関心の高まりをよりリードしていくためにも、この作文コンクールの開催意味は大きいと思います。

今回の作文のテーマは、（一）新型肺炎と闘った中国人たち―苦難をいかに乗り越えたか　（二）新型肺炎から得られた教訓や学んだこと　（三）ありがとうと伝えたい―日本や世界の支援に対して　でした。中国の若者たちのリアルな声がたくさん寄せられました。（一）のテーマへの応募は1691本、（二）のテーマへの応募は1368本、（三）のテーマへは379本でした。

協会は、積極的にこの事業を後援し、毎年審査に加わり日本中国国際教育交流協会賞（教育賞）２編を選出しています。本年度の教育賞は、以下の方々になりました。

★教育賞・日中国際教育交流協会賞（５万円相当）

李矜矜　　安徽師範大学

陳　朝　　清華大学

（１）教育賞受賞作品

テーマ：新型肺炎と闘った中国人たち―苦難をいかに乗り越えたか

「許さんと父の遺言」

李矜矜（安徽師範大学）

皆さんはきっとインターネットでこんな写真を見たことがあるでしょう。それは、マスクを取った医師たちの醜悪な顔です。彼らの顔は汗で白くふやけ、何時間もマスクに押されたせいで赤い跡が付いています。そんな顔になりながらも、彼らは最も危険な現場で、患者の命のために働いています。このテーマに医師たちのことを書くのは、当然すぎてつまらないことと思われるかもしれません。しかし私は、周囲で起こった真実を知ってもらうため、あえて医師たちのことを書きたいと思います。

私の親友である許さんの両親は医者です。新型コロナウイルスが私の省でも発生した頃、許さんは大きなカバンを持って私の家にやって来ました。彼女の話によれば、両親から「お父さんもお母さんも、今は仕事が忙しいんだ。それなのにお前は家で何もせずにゴロゴロしている。邪魔だから、しばらく矜矜さんのところにお世話になりなさい」と言われて、家を追い出されたんだそうです。彼女はすごく怒っていました。そして私の部屋に荷物を置くと、ベッドに身体を投げ出し

て手足をばたつかせました。それからしばらくの間、許さんは私と共に暮らしましたが、些細なことで急に怒り出したり、何かの拍子に突然泣き出したりしました。私は普段の温厚な許さんを知っているだけに、とても困惑しました。そんなある日の夜、ベッドの中でうとうとしかけていた私に、許さんは正直な気持ちを打ち明けてくれました。「矜矜さん、心配かけてごめんね。実は私、親たちが矜矜さんのご両親に電話してるのを聞いちゃったんだ。お父さんは春節からずっと出勤して、家にもなかなか帰ってこられない。病院の中だけじゃなくて、感染した可能性がある人の家へ診察に行ったりもする。お母さんは防護服を着たまま一日中検査室から出られなくて、顔は皮膚が破れて水も飲めなくなっちゃった。親たちが私を家から追い出したのは、娘が感染するリスクを減らそうと思ったからなんだ。私だって馬鹿じゃないから、そんな気落ちは痛いほどわかるよ。でもね、そんな親たちに何もしてあげられない自分が悔しいんだ」。許さんは、天井を見つめながら静かに涙を流していました。

やがて、パソコンを使った授業が行われることになり、教科書などを取りに行くため、私は許さんと一緒に彼女の家に向かいました。必要なものをカバンに詰め込んだあと、私たちは部屋の空気を入れ替えようと手分けして窓を開けました。すると隣の部屋から小さな悲鳴が聞こえたので駆けつけてみると、許さんが封筒のようなものを握りしめて震えていました。何とそれは、許さんのお父さんが彼女にあてて書いた遺書でした。

「親愛なる娘は、父に腹を立てているのではないかな。私が以前言った言葉を覚えているかい？『天将降大任、于是人也……』もし天から重い責任を任されたら、強い心と体でそれを全うしなければならないんだ。私もお母さんも医者である以上、疫病に立ち向かう責任がある。どれだけ危険でも、第一線に立たなければならない。それからもう一つの責任、それは親として自分の子供を守る責任だ。新型肺炎の流行はまだ終わる気配がない。私たちは多くの人を守らなければならない義務があり、そのせいで命を落とすかもしれない。この先の運命は誰にもわからないけれど、あなたのような可愛い娘に恵まれたことを感謝している。もし私達が感染して死ぬようなことになっても、あなたは私たちの娘として、私たちを誇りに思ってくれることを望みます。父より」

新型肺炎が収束しつつある現在、許さんのご両親は無事に病院から戻り、家族で一緒に暮らしています。先日、あの遺書のことを許さんのお父さんに聞いたら「冗談だよ」と笑っていましたが、冗談にならない可能性だってあったはずです。こんな医師が世界には何人もいるのだろうと思うと、胸が熱くなりました。どうぞご無事でと、祈らずにはいられません。

（指導教師：大滝　成一）

「団地の北門」

陳　朝（清華大学）

疫病の時、私が住む団地の北門は普通の人々が苦難を乗り越える姿を展示する展示会場となった。そこで経験したことは激しい戦いではなかったが、平凡な人々の偉大さを感じさせてくれた。

最初に気が付いたのは団地の警備員さんたちであった。疫病が激しくなるにつれて、北門が唯一の出入り口となり、警備員の仕事量が大幅に増加した。人が入るたびに、情報を確認したり、体温を測定したりするのは彼らの仕事であり、毎日朝から晩まで数百回も繰り返していた。私は北門を通るたびに、いつも長く並んでいる列と警備員制服の青さが見えた。待ち時間が長く、警備員が行列から文句を言われることもよくあるが、彼らは何とかして人々を慰め、検測をし続けていく。感染者と接する可能性があるので、彼らがこの団地の中で一番危険な立場にいるとも言えよう。それなのに、私に対してさえいつも微笑んでくれる。このような単調かつつらい仕事を４ヶ月も続いている。その様子には、筆者だけでなくこの団地のすべての住民をその働きぶりに感動されている。毎晩、柔らかいソファーでゲームをやるたびに、まだ体温計を持って、何度も団地に入る人々の体温を測っている彼らの姿が目の前に浮かんでくる。

それから、団地の封鎖のため、毎日の食材は配達員によって北門に送られることとなった。北門の外を眺めると、色とりどりの服を着た配達員の姿が見えた。その中で、体が少し太って、額が汗でいっぱいになっている出前のお兄さんが印象的であった。私が一度野菜を取りに行った時、彼は入り口で止まり、後部座席の箱から袋を四つ取り出し、素早く警備員に渡し、少し説明をしてからすぐにバイクに乗って離れた。疲れを感じさせない彼の一連の動きは私の心を打った。もう少し速く行動できれば、いくつかの家庭が早めに食事できると思っている様子であった。その時は地面に百袋以上の食品が置いてあった。彼のような人が何回も走り回った結果であろう。私の団地だけでなく、この町では数千万人の飲食供給は普通の配達員たちによって維持されていた。そのため、彼らの配達路線はこの大都市の血管とも言えた。

また、この町に戻って半月後、北門のそばに寄付物資のリストが立てられ、上には住民の寄付のさまざまなものが書かれていた。北門を通るたびに、リストは少しずつ長くなることに気が付いてきた。３月が明ける頃には、壁一面がリストで埋められて、寄付した人数は300人を越えた。このリストによってわかったのは、一人の力は政府や企業と比較にならないが、一つの団地の力を集めると、物資のリストが壁一面を埋められるほどになるということである。

おそらく大多数の人は私と同様に、医療現場の前線で戦う英雄の姿を実際に目撃したことがない。だが、私は北門のそばで、普通の人の非凡さを実感した。何ヶ月も単調かつつらい仕事をする人がいれば、身の危険を顧みず出前を運んでくれる人もいる。また、普段は近所との付き合いがあまりない人も疫病に立ち向かうために微力な貢献をした。このような努力は私たちの生活をより安全に導く役割を果たすのはもちろん、前線の戦士を安心させることにも役立つはずである。

私の団地以外の中国の数千万の団地も同じだと思う。一人一人が自分の責任を持ち、多くの人のために貢献し、苦難を乗り越える。平凡であるかもしれないが、これこそが今回の勝利につながったのではないだろうか。疫病が終結したら、私の町だけでなく、ほかの町並びにほかの国にいる友達に連絡して、疫病の中で黙々と捧げていた各国の警備員、清掃員、配達員、寄付者などの普通の人の物語を記録するドキュメンタリーを製作しようと思っている。彼らに自分の物語を述べてもらうことを通して、多くの人々に、普通の人でも団結すればより強い力が結集できて、どんな大きな災難でも乗り越えられるという信念を伝えたい。

（指導教師：日下部龍太）

機関関係

（1）2019（平成31・令和1）年度事業報告

1．教育交流・派遣事業

① 5カ年計画で取り組んだ「宋慶齢基金会との新たなプロジェクト＝山東省泰安市東平県との教育交流事業」の最終年度として取り組みを進めました。具体的には、視察研修訪中団の派遣を、9月6日(金)から8日(日)までの日程で、北京市で行いました。理事・評議員を中心に9名の参加で実施しました。中国側の受け入れは、宋慶齢基金会で、あらかじめ基金会と打ち合わせる中で、中国宗慶齢基金表敬訪問、宋慶齢青少年科技文化交流センター施設見学、宋慶齢基金会幼稚園見学・意見交換・教育交流等を精力的に行うことができました。また、北京市内の見学は、国立博物館・天安門広場等を中心に史跡・資料等について研鑽を深めました。しかし、7日(土)が、国慶節のリハーサルということで、天安門・故宮博物院を中心に、夕方から外出禁止令がしかれ、宿泊ホテルから一歩も外に出られないという「貴重な体験」をすることになってしまいました。そんなわけで、当初計画していた、宋慶齢故居・人民大会堂の見学はできなくなってしまいました。さらに今視察団はアクシデントが続きました。「日本を“台風19号”が直撃する」という予報で、東京方面への飛行機がすべて欠航となってしまい、北京にもう一泊することとなってしまいました。宋慶齢基金会の宿泊施設（ホテル）に泊まり、結果としてさらに研鑽を積むことはできましたが･･･。いずれにせよ、中身の充実した視察研修になりました。

2．教育交流・受入事業

① 5カ年計画の最終年度となる2019年度に、受入事業のまとめとして、10月17日(木)～20日(日)の4日間、山梨県笛吹市を中心に、「第5次宋慶齢基金会教育交流代表団」の受入が行われました。これは教育交流受入事業としての取り組みで、「宋慶齢基金会及び基金会が推薦した東平県の音楽教師と音楽教育を中心とした教育交流・研修を行う。」「第4回日中音楽教育交流会を開催する。」を、具体的な目的として行われました。訪日代表団は、宋慶齢基金会基金部項目総合劉所長を窓口に、山東省泰安市東平県教育局の全面的な協力の下に編成されました。また、「第4回日中音楽教育交流会」については、これまでと同様に、日本中国国際教育交流協会・中国宋慶齢基金会・東平県教育局の三者の共催という形で行いました。団の編成は、宋慶齢基金会基金部湯副巡視員を団長として、秘書長に基金会基金部袁項目主管、山東省泰安市東平県教育局学生出資援助センター史主任他6名が団員という全8名による代表団の構成でした。代表団の受入については、協会の評議員でもある山梨県教組の小串委員長の全面的な協力を得て行われました。また笛吹市教育委員会、笛吹市教育協議会の受け入れという形で、学校視察研修並びに音楽交流会が、笛吹市の教育関係者も参加する中で、笛吹市立春日居小学校を会場に行われました。

3．教育交流・支援事業

① 「宋慶齢基金会との新たなプロジェクト＝山東省泰安市東平県との教育交流事業」が開始されて5年目（最終年度）となりました。今年度は、泰安市東平県教育局及び宋慶齢基金会との打ち合わせを通しながら、東平県の小学校への音楽教育機器等の購入という教育支援費と東平県の音楽教師を第4回日中音楽教育交流会等への参加を通しての日本に於ける音楽教育研修実施に関わる経費補助という内容で決定しました。今年度教育支援費100万円については、9月下旬の協定締結後、速やかに宋慶齢基金会を窓口として、東平県教育局へ送金しました。楽器等の購入についての内訳と訪日諸経費の内容については、東平県より具体的に報告を受けています。

4．教育交流・研究等助成事業

① 日本への外国人留学生は、年々増加しています。特に多いのは、中国からの留学生です。彼らは日本での生活の間に、より多くのことを経験し、また学ぼうと意欲に燃えています。そうした留学生に関わって、日中の教育交流及び文化交流そして強い相互信頼による結びつきを目指す協会の願いとしては、「日本を理解し、日本と母国との友好を担ってくれる人材により多く育って欲しい」と、言うことがあると思います。日本に留学している学生のほとんどは、日本語学校に通学していますが、特に入学初年度は語学力も十分でない上に、なれない異文化の中で、学業・日常の生活面で困難に直面している学生も多いと言われています。協会では、こうした留学生の語学力の向上をめざし、日本をより良く理解する人材を育成するために、教育交流・研究等助成事業としてホームステイ事業を実施しています。今年度で第8回目となる本事業は、上記の諸課題等に対して大きな成果を上げつつあります。第8回教育交流ホームステイは、8月2日(金)から4日(日)の2泊3日の日程で、神奈川県で実施しました。最終日のまとめの会での発言の中にも、終了後提出してもらった報告書や感想文を読んでも、このホームステイの取り組みが、留学生・ホストファミリーのどちらにとっても交流・理解・信頼の進展に大いに役立ったことが確認できました。

② 今年度も教育現場や個人・団体の国際教育交流活動を活発化させ相互理解を深めるための取り組みとして、「第5回日中教育文化交流シンポジウム」を、2月8日(土)に開催する予定で取り組みました。日本語作文コンクールへの取り組みとも関連させる中で、日本と中国の若者の意識に焦点を当てて、両国の歴史性を踏まえた関係認識を考えていくそんなシンポジウムとして計画しました。日中の若者・教職員・協会関係者・マスコミ関係者等で、約90名の参加予定で、パネラーには、今年度の日本語作文コンクール最優秀賞の潘呈さんと、過去の入賞者で日本に留学・就職している2名と、中国への留学経験のある日本人学生2名を選びました。しかしながら、「新型コロナウィルス」の猛威が開催に影響し、残念ながら中止となってしまいました。来年度は、さらに充実させ、日中を中心とする教育文化交流活動を活発化させるための、一つの意味ある取り組みとして開催していきたいと考えています。

③ 2019年度第15回日本語作文コンクール（日本僑報社主催、外務省・在中国日本大使館後援、朝日新聞社など協賛）には、中国各地の208校の大学・専門学校・高校等から計4359作品の応募がありました。日中関係は一昨年、国交正常化45周年、そして昨年は平和友好条約締結40周年という記念すべき年を経て、その強化をさらに加速させなくてはならないと思っています。そうした中で、前向きな両国関係を創り出そうという取り組みの一つとして、中国で日本語を学ぶ中国の若者たちの日本語学習熱や日本への関心の高まりをよりリードしていくためにも、この作文コンクールの開催意味は大きいと思います。今回の作文のテーマは、昨年と同様に3つでした。今年は、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会（東京2020大会）を翌年にひかえることからこれをテーマの1つとし、日中関係のさらなる深化・発展の一助になり得るような意見や提言のある作文を募集しました。〈テーマ〉1．東京2020大会に、かなえたい私の夢！　2．日中新時代を考える ― 中国の若者からの提言　3．今こそ伝えよう！先生、家族、友だちのこと　協会は積極的にこの事業を後援し、毎年最終審査員に加わり、日本中国国際教育交流協会賞（教育賞）2編を選出しています。本年度の教育賞は、「絵の中のお兄ちゃんとイチゴ」大連外国語大学　韓若氷、「十二年後の桜の夢」上海海事大学　林鈺になりました。

5．その他の活動

① 今年度は理事会を3回、評議員会を2回、監査を1回開催しました。しかしながら、新型コロナウィルスの感染予防措置として、3月開催予定だった第39回理事会・第21回評議員会は、書面議決となりました。そのために、理事会に於ける「代表理事及び業務執行理事の業務執行状況の報告」については、取りあえず書面で行い、今後開かれる一番早い理事会の折に正式に報告することとしました。

② 広報関係では、2020年3月に『会報26号』を発行し、「共生力」は、30（4月）・31（11月）号を発行しました。

③ 財政確立に向けての賛助会員の取り組みは引き続き行っています。

（2）経過報告（2019年4月1日～2020年3月31日）

2019年（平成31年）

4月5日（金）	「共生力」NO30発行
8日（月）	事務局打ち合わせ（会計事務所と決算について）
	旅行会社と打ち合わせ（視察研修訪中団・第5次宋慶齢基金会訪日代表団）
16日（火）	事務局打ち合わせ
22日（月）	会計事務所と打ち合わせ（監査について）

2019年（令和元年）

5月7日（火）	決算について会計事務所との最終確認
13日（月）	2019（令和元）年度　第1回監査委員会
20日（月）	第37回理事会（日本教育会館）
31日（金）	事務局打ち合わせ（評議員会他）
6月3日（月）	事務局打ち合わせ（評議員会他）
10日（月）	第18回評議員会（日本教育会館）
14日（金）	事務局打ち合わせ（内閣府提出文書他）

21日（金）　事務局打ち合わせ（内閣府提出文書他）
26日（水）　内閣府電子申請提出
７月３日（水）　事務局打ち合わせ（ホームステイ・視察研修訪中団）
18日（木）　事務局・業者打ち合わせ（視察研修訪中団）
22日（月）　事務局打ち合わせ（ホームステイ・視察研修訪中団）
23日（火）　事務局・業者打ち合わせ（ホームステイ・視察研修訪中団）
25日（木）　事務局・業者打ち合わせ（ホームステイ・視察研修訪中団）
29日（月）　第８回ホームステイin神奈川留学生説明会（フジ国際語学院新宿校）・ホストファミリー説明会（神奈川県相模原市湘北教育会館）
８月２日（金）　第８回ホームステイin神奈川
～４日（日）　まとめの会（神奈川県相模原市湘北教育会館）
16日（金）　第15回日本語作文コンクール審査の採点送付・教育賞２名推薦
19日（月）　事務局打ち合わせ（視察研修訪中団・第５次宋慶齢基金会教育交流代表団・教育支援協定書）
20日（火）　業者と打ち合わせ（視察研修訪中団・第５次宋慶齢基金会教育交流代表団）
26日（月）　内閣府へ事業報告等の補正提出
27日（火）　山梨県教組と打ち合わせ（第５次宋慶齢基金会教育交流代表団）
28日（水）　笛吹市立春日居小学校と打ち合わせ（第５次宋慶齢基金会教育交流代表団）
29日（木）　笛吹市教育委員会・総務課と打ち合わせ（第５次宋慶齢基金会教育交流代表団）
業者と打ち合わせ（視察研修訪中団・第５次宋慶齢基金会教育交流代表団）
30日（金）　事務局打ち合わせ（視察研修訪中団・第５次宋慶齢基金会教育交流代表団・教育支援協定書）
９月２日（月）　事務局・業者打ち合わせ（視察研修訪中団・第５次宋慶齢基金会教育交流代表団・教育支援協定書）
６日（金）　視察研修訪中団（北京）
～９日（月）
12日（木）　事務局打ち合わせ（第５次宋慶齢基金会教育交流代表団・教育支援協定書）
27日（金）　教育支援費100万円の送金（第５次宋慶齢基金会教育交流代表団・東平県小学校音楽教育支援費）
30日（月）　事務局打ち合わせ（第５次宋慶齢基金会教育交流代表団）
10月２日（水）　事務局打ち合わせ（第５次宋慶齢基金会教育交流代表団）
山梨県教組・山梨県知事室との打ち合わせ
３日（木）　業者との打ち合わせ（第５次宋慶齢基金会教育交流代表団）
４日（金）　笛吹市教育委員会との打ち合わせ（第５次宋慶齢基金会教育交流代表団）
７日（月）　事務局打ち合わせ（第５次宋慶齢基金会教育交流代表団）
10日（火）　知事に説明・知事室と打ち合わせ（第５次宋慶齢基金会教育交流代表団）
11日（水）　事務局打ち合わせ（第５次宋慶齢基金会教育交流代表団）
山梨県教組と打ち合わせ（第５次宋慶齢基金会教育交流代表団）
15日（火）　旅行会社との打ち合わせ（日程・マイクロバス・宿泊ホテル・レセプション会場のホテル等）
16日（水）　事務局打ち合わせ（第５次宋慶齢基金会教育交流代表団）
17日（木）　第５次宋慶齢基金会教育交流代表団受け入れ（山梨）
～20日（日）
24日（木）　事務局打ち合わせ、山梨県教育委員会・笛吹市総務課・笛吹市教育委員会・笛吹市立春日居小学校へのお礼
28日（月）　事務局打ち合わせ
11月11日（月）　事務局打ち合わせ
15日（金）　第２回「忘れられない中国滞在エピソード」コンクール表彰式・祝賀会（在日本中国大使館）
22日（木）　「共生力」NO31発行
賛助会員への呼び掛け文書の発送
25日（月）　事務局打ち合わせ
第15回日本語作文コンクール教育賞受賞者決定（韓若氷：大連外国語大学「絵の中のお兄ちゃんとイチゴ」・林鈺：上海海事大学「十二年後の桜の夢」

12月９日（月）　事務局打ち合わせ
16日（月）　事務局打ち合わせ
20日（金）　第５回日中教育交流シンポジウム打ち合わせ（東京）
2020年（令和２年）
１月６日（日）　事務局打ち合わせ・山梨県教組新年互礼会
10日（金）　第38回理事会通知議案書発送（書面議決）、第５回教育交流シンポジウム開催案内発送
20日（月）　事務局打ち合わせ（第５回教育交流シンポジウム開催・会報第26号の発刊）
第５回教育交流シンポジウム中止決定（新型コロナウイルス対応）
31日（金）　第38回理事会書面議決
２月１日（金）　第35回理事会議決日
13日（木）　第39回理事会・第21回評議員会開催通知発送
17日（月）　事務局打ち合わせ（理事会・評議員会準備）
20日（木）　事務局打ち合わせ（理事会・評議員会準備、新型コロナウイルス対応について）
25日（火）　事務局打ち合わせ（理事会・評議員会準備、新型コロナウイルス対応について）
業者との打ち合わせ（会報26号）
26日（水）　第39回理事会・第21回評議員会を書面議決とする通知の発送
27日（木）　来年度予算等について会計事務所との打ち合わせ（事務所）
３月３日（火）　事務局打ち合わせ（理事会・評議員会最終）
４日（水）　第39回理事会・第21回評議員会（書面議決）議案書発送
フジ国際語学院卒業式中止
９日（月）　事務局打ち合わせ（会報ゲラ校正）
11日（水）　印刷所との打ち合わせ
16日（月）　第39回理事会・第21回評議員会（書面議決）議決日
25日（水）　会報26号発刊
27日（金）　事務局打ち合わせ（今後の取り組み等）
31日（火）　内閣府へ事業計画・予算の提出

（３）2020（令和２）年度事業計画案

１．教育交流・派遣事業
①　「新たな教育交流プロジェクト」実施地の決定を、中国側の重要なパートナーである中国宋慶齢基金会との協議の中で行います。
②　「新たな教育交流プロジェクト」の実施内容を決定するために、「視察研修訪中団」の派遣を行います。
２．教育交流・受入事業
①　第６次宋慶齢基金会教育交流代表団の受け入れについて検討していきます。
②　中国教育国際交流協会、中国宋慶齢基金会、教育工会及びその他の教育諸団体が派遣する団体との教育交流、及び学校参観などの受入れ手配等を行います。
３．教育交流・支援事業
①　１年次となる教育交流支援を、「新たな教育交流プロジェクト」のもとに行います。
４．教育交流・研究等助成事業
①　第９回教育交流ホームステイを実施します。
②　「留学生による日本語作文コンクール（仮称）」を実施します。
③　教育現場や個人・団体の国際教育交流活動を活発化させるため、第５回日中教育文化交流シンポジウムを開催します。
④　第16回日本語作文コンクール（日本僑報社・日中交流研究所主催）の後援を継続します。
５．機関運営などに関して
①　理事会、評議員会を年２回、監査委員会を年１回、各委員会、事務局会を随時行います。
②　年会報28号を発行します。『共生力』を随時発行します。ホームページの充実を図ります。
③　事業推進に関する理解を図りながら会員を拡大し、よって財政基盤の確立を図るために、引き続き組織的な取り組みを進めます。

（4）2020（令和２）年度収支予算書

令和２年４月１日から令和３年３月31日まで　　（単位：円）

科目	2年度予算案額	31年度予算案額	31年実績見込み	増減 A-B	備考
Ⅰ　事業活動収支の部					
1．事業活動収入					
①　基本財産運用収入	3,000	3,000	3,000	0	
基本財産運用収入	3,000	3,000	3,000	0	
②　特定資産運用収入	1,302	2,180	1,302	△ 878	
(公１)訪中派遣費用準備資金	230	680	230	△ 450	
(公２)訪日受入事業準備資金	128	300	128	△ 172	
(公３)教育交流支援費用準備資金	100	500	100	△ 400	
(公４)田中一郎記念奨学基金	844	700	844	144	
(共通)教育交流積立金	0	0	0	0	
③　会費収入	7,520,000	7,000,000	7,539,000	520,000	
1．団体会費収入	7,310,000	6,800,000	7,310,000	510,000	
2．個人会費収入	110,000	100,000	110,000	10,000	
3．賛助会費収入	100,000	100,000	119,000	0	
④　寄付金収入	0	0	0	0	
寄付金収入	0	0	0	0	
特別寄付金収入	0	0	0	0	
⑤　事業収入	640,000	540,000	580,000	100,000	
1．教育交流･派遣事業	500,000	400,000	420,000	100,000	50,000×10
2．教育交流･受入事業	0	0	20,000	0	
3．教育交流･支援事業	0	0	0	0	
4．教育交流･研究助成事業	140,000	140,000	140,000	0	20,000×7(ホームステイ)
⑥　雑収入	0	0	19	0	
雑収入	0	0	0	0	
受取利息	0	0	19	0	
事業活動収入合計	8,164,302	7,545,180	8,123,321	619,122	
2．事業活動支出				0	
①　事業費支出	8,305,500	8,891,000	7,183,615	△ 585,500	
(1)　教育交流・派遣事業	4,347,000	2,348,000	1,947,280	1,999,000	
1．役員報酬	240,000	240,000	240,000	0	総額の12分の３
2．給料手当	300,000	300,000	300,000	0	総額の12分の３
3．会議費	1,000	1,000		0	会議会場費　飲物代など
4．交際費	30,000	30,000	0	0	事務所来客用お茶等、土産代
5．旅費交通費	3,500,000	1,500,000	1,190,812	2,000,000	訪中(打合せ4名･視察10名)･職員交通費(3か月)
6．通信運搬費	45,000	48,000	36,766	△ 3,000	保守料金・電話料金(３か月)
7．消耗品費	1,000	1,000	1,296	0	
8．印刷製本費	25,000	25,000	11,640	0	ゼロックスカウント料(３か月)
9．賃借料	135,000	183,000	132,978	△ 48,000	総額の約12分の３
10．委託費	0	0	0	0	
11．教育支援費	0	0	0	0	
12．研究助成費	0	0	0	0	
13．謝金	50,000	0	33,788	50,000	
14．雑費	20,000	20,000	0	0	
(2)　教育交流・受入事業	517,000	3,044,000	2,294,796	△ 2,527,000	
1．役員報酬	160,000	160,000	160,000	0	総額の12分の２
2．給料手当	200,000	200,000	200,000	0	総額の12分の２
3．会議費	1,000	1,000	0	0	交流会議　打合せ　会場費など
4．交際費	1,000	1,000	0	0	
5．旅費交通費	7,000	2,500,000	1,709,423	△ 2,493,000	職員交通費(２か月)
6．通信運搬費	30,000	32,000	23,655	△ 2,000	保守料金・電話料金(２か月)
7．消耗品費	1,000	1,000	0	0	
8．印刷製本費	25,000	25,000	18,394	0	ゼロックスカウント料(３か月)
9．賃借料	90,000	122,000	88,660	△ 32,000	総額の約12分の２
10．委託費	1,000	1,000	0	0	
11．教育支援費	0	0	0	0	交流会議　打合せ　会場費など
12．研究助成費	0	0	0	0	訪日に関わる諸費用等
13．謝金	0	0	94,664	0	
14．雑費	1,000	1,000	0	0	
(3)　教育交流･支援事業	1,529,500	1,553,000	1,512,826	△ 23,500	
1．役員報酬	160,000	160,000	160,000	0	総額の12分の２
2．給料手当	200,000	200,000	200,000	0	総額の12分の２
3．会議費	1,000	1,000	0	0	打合せ　委員会　参加者会議　会場費など
4．交際費	1,000	1,000	0	0	事務所来客用お茶等
5．旅費交通費	10,500	15,000	10,500	△ 4,500	職員交通費(３か月)
6．通信運搬費	45,000	32,000	22,605	13,000	保守料金・電話料金(３か月)
7．消耗品費	1,000	1,000	0	0	
8．印刷製本費	10,000	10,000	5,022	0	ゼロックスカウント料(３か月)
9．賃借料	90,000	122,000	107,699	△ 32,000	総額の約12分の２
10．委託費	1,000	1,000	0	0	
11．教育支援費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	宋慶齢基金会との共同プロジェクト
12．研究助成費	0	0	0	0	
13．謝金	0	0	0	0	
14．雑費	10,000	10,000	7,000	0	送金手数料など
(4)　教育交流・研究等助成事業	1,312,000	1,346,000	926,335	△ 34,000	
1．役員報酬	160,000	160,000	160,000	0	総額の12分の２
2．給料手当	200,000	200,000	200,000	0	総額の12分の２
3．会議費	100,000	100,000		0	研究会　打合せ　会場費など
4．交際費	5,000	5,000		0	事務所来客用お茶、手土産等
5．旅費交通費	95,000	95,000	69,545	0	職員交通費(２か月) ホームステイ、シンポジウム旅費等
6．通信運搬費	30,000	32,000	30,000	△ 2,000	保守料金・電話料金(２か月)
7．消耗品費	1,000	1,000		0	

科目	2年度予算案額	31年度予算案額	31年実績見込み	増減 A-B	備考
8．印刷製本費	10,000	10,000	8,507	0	ゼロックスカウント料(３か月)
9．賃借料	90,000	122,000	88,660	△ 32,000	総額の約12分の２
10．委託費	0	0	0	0	
11．教育支援費	0	0	0	0	
12．研究助成費	550,000	550,000	369,623	0	作文コンクール・ホームステイ・シンポジウム(懇親会含む)など
13．謝金	70,000	70,000	0	0	シンポジウムパネラー、講師謝金
14．雑費	1,000	1,000	0	0	
共通	600,000	600,000	502,378	0	
1．役員報酬	0	0	0	0	
2．給料手当	0	0	0	0	
3．会議費	10,000	10,000		0	研究会　打合せ　会場費など
4．交際費	10,000	10,000	9,688	0	事務所来客用お茶等
5．旅費交通費	100,000	100,000	81,024	0	役員国内交通費　委託先訪問時ほか
6．通信運搬費	180,000	180,000	120,000	0	切手代　賛助会費発送代　封筒代　資料送付等
7．消耗品費	20,000	20,000	15,386	0	
8．印刷製本費	250,000	250,000	250,000	0	年会報印刷代
9．賃借料	0	0	0	0	
10．委託費	30,000	30,000	26,280	0	ＨＰ使用料ドメイン使用料
11．教育支援費	0	0	0	0	
12．研修助成費	0	0	0	0	
13．謝金	0	0	0	0	
14．雑費	0	0	0	0	
②　法人費支出	2,251,000	2,231,000	2,125,739	20,000	
1．役員手当報酬支出	240,000	240,000	240,000	0	総額の12分の３
2．給料手当支出	300,000	300,000	300,000	0	総額の12分の３
3．法定福利費支出	5,000	5,000	3,624	0	
4．会議費支出	70,000	70,000	55,000	0	理事会　評議員会等会場費　打ち合わせなど
5．交際費支出	50,000	50,000	11,080	0	慶弔費など
6．旅費交通費支出	400,000	400,000	350,120	0	理事会　評議員会旅費など
7．通信運搬費支出	45,000	30,000	34,648	15,000	保守料金・電話料金(３か月)
8．消耗什器備品費支出	10,000	10,000	99,684	0	パソコン資金など
9．消耗品費支出	10,000	10,000	4,423	0	修繕費を含む
10．印刷製本費支出	1,000	1,000	0	0	
11．賃借料支出	215,000	260,000	184,730	△ 45,000	総額の約12分の3 更新料、家財保険料、保証料他
12．租税公課支出	5,000	5,000	1,900	0	
13．委託料支出	850,000	800,000	824,640	50,000	日本パートナーズ会計など
14．雑支出	50,000	50,000	15,890	0	
事業活動支出合計	10,556,500	11,122,000	9,309,354	△ 565,500	
事業活動収支差額	-2,392,198	-3,576,820	△ 1,186,033	1,184,622	
Ⅱ　投資活動収支の部				0	
1．投資活動収入				0	
①　基本財産変更差額収入	0	0	0	0	
基本財産変更差額収入			0	0	
②　特定資産取崩収入	3,400,000	10,020,000	10,020,000	△ 6,620,000	
(公１)訪中派遣費用準備資金	400,000	1,500,000	1,500,000	△ 1,100,000	
(公１)訪中派遣費用準備資金	2,000,000				
(公２)訪日受入事業準備資金		3,000,000	3,000,000	△ 3,000,000	
(公３)教育交流支援費用準備資金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	
(公４)田中一郎記念奨学事業準備資金	0	520,000	520,000	△ 520,000	
(公４)田中一郎記念奨学基金		4,000,000	4,000,000		
(共通)教育交流積立金				0	
投資活動収入計	3,400,000	10,020,000	10,020,000	△ 6,620,000	
2．投資活動支出				0	
①　特定資産取得支出	500,000	5,500,000	9,100,000	△ 5,000,000	
(公１)訪中派遣費用準備資金	500,000	500,000	500,000	0	
(公１)訪中派遣費用準備資金		0	2,000,000	0	
(公２)訪日受入事業準備資金		1,000,000	1,000,000	△ 1,000,000	
(公３)教育交流支援費用準備資金				0	
(公４)田中一郎記念奨学事業準備資金		4,000,000	4,000,000	△ 4,000,000	
(公４)田中一郎記念奨学基金		0	1,600,000	0	
(共通)教育交流積立金		0		0	
②　固定資産取得支出	0	0	0	0	
什器備品購入支出	0	0	0	0	
③　その他の支出	0	0	0	0	
解約金	0	0	0	0	
投資活動支出計	500,000	5,500,000	9,100,000	△ 5,000,000	
投資活動収支差額	2,900,000	4,520,000	920,000	△ 1,620,000	
Ⅲ　財務活動収支の部				0	
1．財務活動収入				0	
財務活動収入計				0	
2．財務活動支出				0	
財務活動支出計				0	
財務活動収支差額			0	0	
Ⅳ　予備費支出	400,000	800,000	100,000	△ 400,000	31年実績：ＰＣ購入
当期収支差額	107,802	143,180	△ 366,033	△ 35,378	
前期繰越収支差額	2,000,000	3,200,000	2,377,139	△ 1,200,000	
次期繰越収支差額	2,107,802	3,343,180	2,011,106		
Ⅴ　当期一般正味財産増減額の部				0	
一般正味財産期首残高(見込概数)	59,480,000	60,440,000		△ 960,000	
一般正味財産期末残高(見込概数)	57,087,802	56,863,180		224,622	
Ⅵ　当期指定正味財産増減額の部				0	
指定正味財産期首残高				0	
指定正味財産期末残高				0	
Ⅶ　正味財産期末残高(見込概数)				0	

(5) 2020（令和２）年度役員・評議員・公益事業審査員名簿

公益財団法人日本中国国際教育交流協会　理事・評議員・監査・顧問・公益事業審査委員

＜ 2021（令和３）年３月１日現在）＞

評議員（８名）

井　上　定　彦

内　山　靖　行

大　川　正　勝

小　串　吾　郎

黒　田　文　男

髙　野　雅　典

別　所　勝　也

山　中　小　白

監　事（２名）

鈴　木　伸　昭

山　門　　真

公益事業審査委員（５名）

初　岡　昌一郎

樋　口　弘　夫

田　中　正　志

小　串　吾　郎（評議員）

赤　岡　直　人（理事）

理　事（７名）

赤　池　浩　章

赤　岡　直　人（業務執行理事）

天　野　博　史

朽　見　誠　二

中　村　武　志（代表理事）

前　嶌　徳　男

政　金　正　裕

顧　問（２名）

興　石　　東

生　井　榮　一

協会の歩み

設　　立　1991年１月
1992年財団法人認可
2010年８月５日公益財団法人認定
公益財団法人移行　2010年８月９日
創 立 者　田中　一郎（初代理事長）
理 事 長　生井　榮一（第２代）
代表理事　黒田　文男（第３代2010年４月～現在）

教育交流・派遣事業

1992　私立学校教職員訪中団（北京、大連）、第１次教育訪中団（北京、杭州。李鉄映国家教育委員会主任と会見）
1993　第２次教育訪中団（北京、瀋陽、撫順、大連。倪全人代常務副委員長会見）
1994　第３次訪中団（昆明、成都）
1995　第４次教育訪中団（ウルムチ、トルファン）、協会理事訪中団（北京。国家教育委員会、中国教育国際交流協会訪問）
1996　第５次教育訪中団（済南・青島、蘇州）
1997　第６次教育訪中団（日中国交正常化25周年、財団設立５周年記念北京、天津、常州、蘇州。朱国家教育委員会主任と会見）
1998　第７次教育訪中団（北京、ハルビン、長春）
1999　第８次教育訪中団（南京、杭州、上海）
2000　第９次教育訪中団（昆明、大理、麗江）
2001　第10次教育訪中団（西寧、西安）
2002　第11次教育訪中団（日中国交正常化25周年記念。南寧、桂林）
2004　第12次教育訪中団（北京、承徳）
2006　第13次教育訪中団（北京、天津）
2007　第１期安東自由大学参加団（韓国・安東市）
2008　第14次教育訪中団（北京、河北省易県）
第２期安東自由大学参加団（韓国・安東、ソウル）
2009　第３期安東自由大学参加団（韓国・安東、ソウル）
2010　第15次教育訪中団（北京、河北省易県）
2011　第５期安東自由大学参加団（韓国・安東、ソウル）
2012　第６期安東自由大学参加団（韓国・安東、大邱、ソウル）
2013　第７期安東自由大学参加団（韓国・安東、ソウル）
2014　第16次教育訪中団（上海・南京）
2015　視察研修訪中団（北京・泰安市東平県）
2016　第１回日中音楽教育交流会（北京・泰安市東平県）
2018　第17次教育訪中団（北京・泰安・青島）第３回日中音楽教育交流会（泰安市等東平県）
2019　視察研修訪中団（北京）

教育交流・受入事業

1992　中国教職員訪日代表団（東京、三重、神奈川、愛知、茨城、山梨、千葉、静岡）
1993　寧波市訪日団（東京、茨城、群馬、千葉）、常州市訪日団（兵庫、福井、三重）、寧夏自治区訪日団（愛知、富山、新潟）、中国教育国際交流代表団（東京、神奈川、静岡、神奈川、京都、奈良、兵庫、大阪。赤松文相と会談）
1994　江蘇省小学校長訪日団（神奈川、山梨、静岡）
1995　湖南省訪日団（愛知、静岡、三重）、蘇州市訪日団（千葉、神奈川、山梨）
1996　モンゴル赤峰市職業教育代表団（東京、北海道）、常州市訪日団（千葉、山梨、東京）卒業生就職指導訪日団
1997　日中国交正常化25周年、財団設立５周年記念教育交流訪日団（東京、愛知、三重）
1998　蘇州市・昆山市訪日団（東京、福井、千葉）常州市訪日団（東京、山梨、三重、京都、奈良、大阪）
1999　北京市第二実験小学校訪日団（東京、神奈川、京都、大阪）中国優秀教師訪日団（東京、静岡）
2000　雲南教育学会訪日団（東京、山梨、千葉）
2001　中国教育交流訪日団（東京、山梨、奈良、京都、大阪）
2002　中国特殊教育工作者代表団（東京、三重）
2003　北京市崇文区教育関係者訪日団（東京、山梨）
2006　協会設立15周年記念中国教育国際交流訪日団（東京）遼寧省体育訪日団（東京、神奈川、滋賀、大阪）
2008　中国宋慶齢基金会教育代表団（第１次）（東京、静岡、愛知、京都）
2009　中国宋慶齢基金会李寧秘書長、協会を訪問
2011　協会設立20周年記念中国教育国際交流協会訪日団、中国宋慶齢基金会教育代表団（第２次）（東京、神奈川）
2012　中国宋慶齢基金会唐問生副主席、協会を訪問
2013　第３次宋慶齢基金会教育交流代表団（三重、京都）
2017　第４次宋慶齢基金会教育交流代表団（静岡）
第２回日中音楽教育交流会（静岡）
2019　第５次宋慶齢基金会教育交流代表団（山梨）第４回日中音楽教育交流会（山梨）

教育交流・支援事業

1996　雲南省災害教育復興資金（100万円）を贈る。
1998　長江水害見舞金（100万円）を中国教育国際交流協会を通じて贈る。松花江水害見舞金（50万円）を黒龍江省教育委員会を通じて贈る。
2006　協会代表、中国宋慶齢基金会、河北省易県を訪問。
2007　生井理事長が中国宋慶齢基金会胡啓立主席と会談。河北省易県小学校へ机椅子600セット及び電子キーボード40台（総額200万円）の教育支援及び音楽教師養成セミナー支援。協定書締結。
2008　四川大地震に対し、見舞金（100万円）を中国教育国際交流協会を通じ四川教育国際交流協会へ。同じく見舞金（50万円）を宋慶齢基金会を通じて贈る。また、ミャンマーサイクロン被害見舞金（50万円）をビルマ日本事務所を通じて送る。日本教育公務員共済会より易県教育支援に関し、本部奨励金（100万円）を受ける。
2009　第１回音楽教師養成セミナー参加（北京、河北省易県）
2010　第２回音楽教師養成セミナー支援・参加（70万円）
2011　第３回音楽教師養成セミナー支援・参加（100万円）。

東日本大震災支援「こども音楽再生基金」へ寄附（100万円）。

2012　協会代表（黒田代表理事）以下４名が中国宋慶齢基金会（李寧秘書長）、中国教育国際交流協会（林佐平副秘書長）、中国教育科学文化衛生体育工会（万民東主席）を訪問。第４回音楽教師養成セミナー支援（250万円）。

2013　第５回音楽教師養成セミナー支援（200万円）（黒田代表理事、会員代表ら８名参加）。

2014　協会代表（黒田理事長）以下３名が中国宋慶齢基金会（井頓泉副主席）、中国教科文衛體工會全國委員會（白立文國際代表）を訪問。第５回音楽教師養成セミナー支援（100万円）送金。

2015　協会代表（黒田理事長）以下３名が中国宋慶齢基金会（井頓泉副主席）を訪問。山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。

2016　協会代表（黒田理事長）以下６名が中国宋慶齢基金会（井頓泉副主席）を訪問。山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。

2017　山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。

2018　山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。

2019　山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。

教育交流・研究等助成事業

1995　中国人日本留学生に奨学奨励金制度を設ける

1997　協会設立５周年記念教育交流集会・レセプション（東京）

1999　韓国中学校教育協議会名誉会長厳圭白博士と田中会長・理事長会見

2001　中国教育国際交流協会20周年式典で、田中会長・理事長が顧問に就任。協会設立10周年記念教育交流集会（文部省後援、東京）

2002　日中国交正常化30周年記念教育交流集会・レセプション（文科省・中国大使館教育処後援、東京）

2006　協会設立15周年記念教育交流集会・レセプション（文部省・中国大使館教育処後援、東京）

2007　第３回「中国人の日本語作文コンクール」を後援、教育賞を提供。

2008　第４回「中国人の日本語作文コンクール」を後援、教育賞を提供。

2009　第５回「中国人の日本語作文コンクール」後援。

2010　第６回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。

2011　第７回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。フジ国際語学院スピーチコンテンスト協賛。

2012　第１回教育交流ホームステイ（in 山梨）実施。第８回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。フジ国際語学院スピーチコンテンスト協賛。

2013　第２回教育交流ホームステイ（in 山梨）。第９回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。

2014　第３回教育交流ホームステイ（in 山梨）。第10回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。

2015　第４回教育交流ホームステイ（in 山梨）。第11回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第１回教育交流シンポジウム開催。

2016　第５回教育交流ホームステイ（in 千葉）。第12回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第２回教育交流シンポジウム開催。

2017　第６回教育交流ホームステイ（in 千葉）。第13回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第３回教育交流シンポジウム開催。

2018　第７回教育交流ホームステイ（in 山梨）。第14回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第４回教育交流シンポジウム開催。

2019　第８回教育交流ホームステイ（in 神奈川）。第15回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。

2020　第16回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。

（2021年３月現在）

公益財団法人日本中国国際教育交流協会とは

◆日本中国国際教育交流協会は

1971年に創立。東アジアの豊かな未来を実現するために、日本と中国を柱として、教育交流事業を進めています。子どもや教育の持つ「共生力」に限りない期待を寄せています。

◆公益財団法人とは

広く公益に資する事業を進めている法人として2010年内閣府から認定を受けました。公益法人は、寄付金に税はかからないので、支援がしやすいのが特徴です。

◆教育交流は４つの分野で

１　派遣

教育に関心のある人たちによって構成された協会が派遣する団で、学校見学、授業の交流、子どもや教職員との交流を行い、未来の東アジアを地球規模で考えます。

２　受入

諸外国からの教育関係の訪日団を受け入れ、学校訪問等を行い、教職員や子どもたちとの交流を深めています。訪日団の希望に沿って、教育現場の協力を得た研修への参加ができます。

３　支援

教育困難地域の学校に、机や椅子などの学校備品のほか、電子キーボードなどの教育機器を送っています。また送った機器を使って授業が進められるための研修を支援しています。支援を受け入れる団体は、行政または信頼のおける団体です。

４　研究等助成

田中一郎奨学基金を設立し、東アジアを中心に国際的な教育交流を担う人材を育成します。また、「日本語作文コンクール」「教育交流ホームステイ」などを通して、海外や日本で日本語を勉強している若者の学習を助成しています。

◆東アジアでのこの素敵な教育交流への参加をお待ちします。

個人会員	年会費	一口　5,000円
団体会員	年会費	一口　10,000円
賛助会員	年会費	一口　3,000円
寄付金	随時	

会員、寄附をされた団体・個人には、協会の年会報、「共生力」（随時発行の会報）、海外派遣への先行連絡、イベントのご案内など差し上げます。

【編集後記】

「人類最後の敵はウィルスだ」と、いつか何かの本で読んだことがあります。まさに、その言葉を思い知らされるような、そんなこの一年だったように感じています。危機に直面すると、いまさらのように、「いつも当たり前と思っている日常とは、何とこんなにも他愛もなく、脆いものなのか」とも考えさせられました。「新型コロナウィルス」その脅威は、教育交流という崇高な理想を掲げ、人と人が教育という営みへの関わりを通して、素朴に一歩ずつ実績を積み上げていく活動をも阻害しました。「新型コロナウィルスの流行は、驕り高ぶる人類への警鐘なのかもしれない」と言う人もいます。少なくとも、この「人類の危機」を、一人一人が真剣に受け止め、格差社会という大きな矛盾から、「いつも弱い者・持たざる者が犠牲になる」というこの世界の構造を変えていかなくてはならないと、考えるようになってほしいと思いました。

■公益財団法人日本中国国際教育交流協会【会報第27号】

2021年（令和３年）３月25日発行

発行人…中村武志　表紙題字…田中一郎（創立者）　印刷…（株）アートプリント

〒400-0031　山梨県甲府市丸の内2-32-16　甲府丸の内マンション302

Tel.055-269-6533　Fax.055-269-6534

HP：http://ajciee.or.jp/